

■中国：太陽光発電、2014年の新規開発1,180万kW

2013年11月15日付の報道によると、国家能源局は2014年度の各省における太陽光発電の開発規模案を発表した。それによると、2014年の年間開発量は約1,180万kWで、その内、分散型太陽光発電を約760万kWである。各省別に見ると、分散型と大規模の比率は、江蘇省で12：1、山東省と浙江省、広東省では、10：1となっている。これについて、専門家は、東部地区では電気料金が高いため、太陽光発電の開発意欲はあるが、土地の手当てが困難であるため、分散型を選択せざるを得ないのではないかと見ている。一方、広大な土地が比較的容易に手当てできる、青海省と新疆ウイグル自治区、寧夏回族自治区、甘肅省、内蒙古自治区、陝西省、河北省などでは、大規模容量の開発意欲が高く、来年の新規開発容量は310万kWとされている。